



最優秀賞受賞にあたって

岩手大学教育学部附属中学校 さとうとしひと 佐藤寿仁

岩手大学教育学部附属中学校の佐藤寿仁と申します。このたびはこのような大きな賞をいただき、大変感謝しております。

今回、私の書いた論文の中には、「学びの自覚化」という言葉を置いています。これは本校の研究の一環でもあります。全教科において、このキーワードに沿って実践されています。要は生徒の思考をいかに大事に私たちが見ていくかという発想です。

私たち教師の間でよく話題になるのは、例えば教材であったり、もしくは教材に使うICTの機械であったりということが多いのですが、私はそれにプラスして、子どもたちがどのように考えているのか、子どもたちがどう考えを深めようとしているのか、などについて話をしています。

今回応募した論文も、子どもたちを結果で見るとはではなく、子どもたちと一緒に歩み、ときには背中を押しながら、またときには引っぱりながら、そしてときには子どもたちに学びながら実践したものをまとめました。

明日からまた学校で授業がありますが、非常に楽しみです。私は子どもたちに学ぶ力と

いうか、どうやって学んでいけばよいのかというものを、数学の授業の中で教えているつもりです。子どもたちは何年かすれば私たちの手を離れて、岩手県もしくはこの日本をつくっていく人たちです。その子どもたちに私は何とかその一端というか、きっかけとなるようなものを学校教育の中で見つけ学んでいてほしいという願いをもって実践しています。

私の勤務している学校は、大学の教育学部の多くの学生が授業を見に来ます。そして多くの先生方も見に来ます。そういう意味で、先ほど審査委員の先生方からもありましたが、私たちはこうした研究成果をどんどん発信していく役割を担っています。

私も教職17年目になりましたが、これからの若い先生方のためにももっともっと発信していきたいと、今回の受賞でそんな気持ちにもさせていただきました。

これからもますます頑張りたいと思いますし、まだまだ勉強させていただきたいと思います。

本日は、ありがとうございました。